

## アクティビティ2「地域の意見をまとめる」 〈家族情報〉

### アダモウさん一家

息子の目が少しおかしいのではないかとアダモウさんが感じ始めたのは、だいぶ前のことです。すぐにでも病院に連れて行きたいと思いましたが、病院は15キロも離れていますし、治療に使えるお金もなかったのです。しばらく様子を見ていました。しかし、あまりにもひどくなってきたようだったので、昨日やっとの思いで病院に連れていきました。どうやら息子さんは、トラコーマというおそろしい目の病気にかかっていたようです。トラコーマはある病原菌によって引き起こされる病気で、手や顔を洗うためのきれいな水がない地域で急速に広まる傾向があります。毎日1リットルのきれいな水があれば、アダモウさんの息子がこの病気に感染することもなかったそうです。もちろん、きれいな水があれば病気にならないということも、またすぐに病院に連れて行くべきだったということも、アダモウさんはよくわかっています。でもどうしようもなかったのです。雨が降らずに水不足がつづいていましたし、お金もありませんでした。今手に入るわずかの水を、飲み水として使うべきか、あるいは病気の息子のお風呂に使うべきか、アダモウさんは難しい選択を毎日せまられています。

### セコさん一家

セコさんは今、孫たちと一緒に暮らしています。息子夫婦は、HIV/AIDSのために亡くなりました。両親を亡くした悲しみに生きる気力を失った孫たちを引き取ったとき、セコさんはどうしてよいのか正直わかりませんでした。自分も、息子夫婦を失った悲しみに打ちひしがれていたのですから……。それに農業を営むセコさんの収入はわずかなものですから、孫たちの学費を払えるかどうか、いつも不安です。今でも、家計のやりくりは本当に大変です。でも、明るい未来に向かって生きる孫たちから元気をもらっています。孫たちは今、アドゥ地域とその周辺の村々でエイズの教育のプログラムを実施するリーダーとして活躍しています。両親をHIV/AIDSで失った子供たちが自分たちと同じように悲しむことがないようにと、努力しているのです。セコさんも、孫たちの演劇やパフォーマンスを見て、とても感動しました。地域でHIV/AIDSをなくしていくためには、強さと勇気が必要です。多くの人々がなかなか理解できない難しい問題に、セコさんの孫はすすんでチャレンジしています。

### トゥレさん一家

水不足により、トゥレさんが飼っていた家畜は次々と死んでしまいました。何とか生き残っている家畜にも、十分な水をあたえることができません。やせ細ってしまった家畜たちは、あまり高く売れなかったようですが、このまま死んでしまうのであれば、安くても市場で売ってしまった方がよいのではないかとトゥレさんは考えています。多くの農家でも同じことが起こっているのです。市場では家畜がたくさん売りにだされています。そのために価格はこのところずっと低下しています。買い手が見つかったとしても、本当にわずかなお金しか手に入らないでしょう。真面目なトゥレさんは、これまでわずかな収入の中で貯金をしてきました。少しだけですが、蓄えがあるのです。このお金で、何とかこの水不足の中でも食べてはいけそうですが、子供たちの学費を払うことはできなさそうです。子供たちには、学校をやめて働いてもらわなければならないかもしれません。

### カレンガさん一家

農業を営むカレンガさん一家は、食べ物がもうほとんどありません。去年は干ばつがひどく、毎日家から5キロ離れた井戸に行っても、ほんのわずかの水しか手に入りませんでした。水がなければ、畑の作物はまったく育ちません。自分たちが食べるものがなければ、売ることのできる作物もないのです。もちろん水も手に入りません。どうやって食べていけばいいのか……カレンガさんは頭をかかえています。そんなカレンガさん一家のせめてものなぐさめは、音楽です。お父さんとお母さんは地域の合唱団に、子供たちは子供合唱団に入っています。どんなに苦しいときでも、歌は家族につかの間の喜びを運んでくれるのです。

### ルムンバさんの一家

ルムンバさんの夫は、町へ出稼ぎに行っています。女性が家を守るという習慣が好ましくないと考えられている地域において、夫がそばにいないという状況は、正直とてもつらいものです。毎日さびしい思いをしています。本当は一緒に楽しく暮らしたいと思っていますが、収入を得るためにはこうするしかありません。水不足のためには、地域では作物がほとんど取れませんでしたし、他の仕事もなくなってしまいました。ルムンバさんの夫も、仕事がなくなってしまったのです。ですから、食べて行くためには、夫が町で働くしかなかったのです。何とか安定した収入を得られるように、そして一日も早く夫と一緒にこの地域で再び暮らせるように、ルムンバさんも新しい仕事を始めたいと思っていますが、商売を始めるためのお金もありませんし、そのためのスキルもありません。

### アサンテさんの一家

アサンテさんは、学校の先生です。正式な訓練は受けていませんが、自分にとっては天職とも思える大好きな仕事です。給料は高くありません。しかし、どんなわずかでも、収入はとても大切です。アサンテさんの奥さんは畑で作物を作っていますが、水不足のためほとんど何もとれません。食べていくためには、アサンテさんの収入がたのみなのです。学校に通ってくる生徒たちは次々と退学していきます。学費が払えないのです。さらに十分な食べものがないので、栄養状態が悪い生徒たちがほとんどです。生徒たちがみんなやめてしまったら、アサンテさんの仕事もなくなってしまうでしょう。そんな不安もありますが、家のお手伝いでなかなか勉強する時間がないにも関わらず、熱心に授業を聞いてくれる生徒たちから、アサンテさんは勇気をもらっています。

コンセンサス表

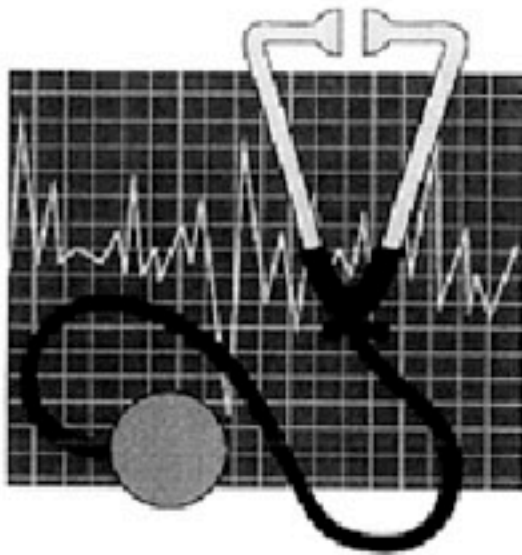
HIV/AIDS



教育



保健衛生と栄養



水と公衆衛生



食料・農業



経済開発  
(マイクロ・クレジット)

